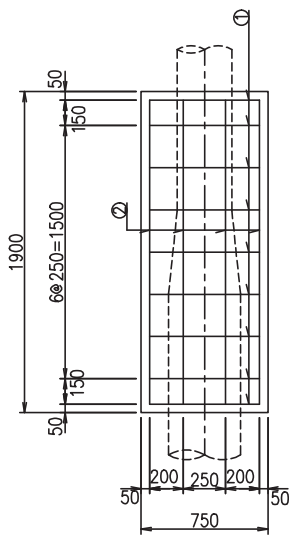
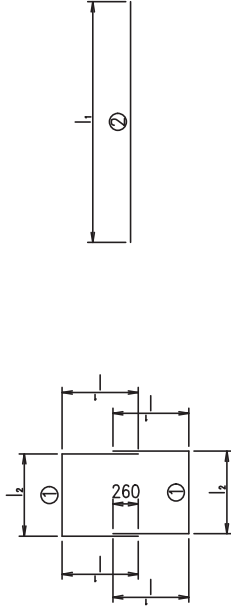


VI 異形管（片落管）防護標準図集

平面図

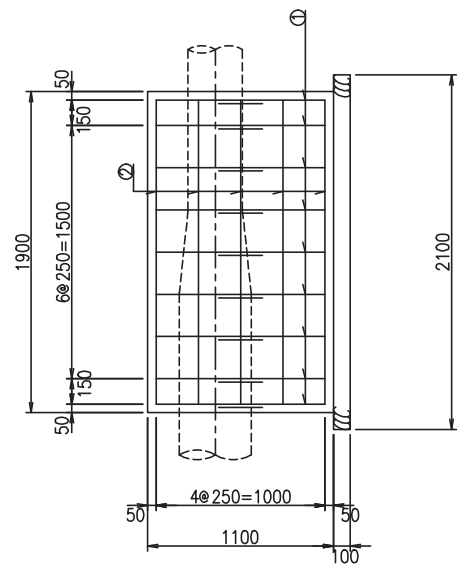


配筋加工図

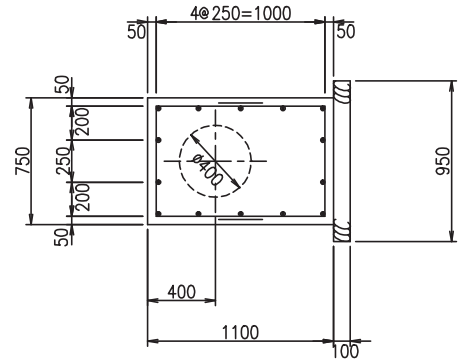


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	630	650		1,910	18	34,380
②	D13	1,800			1,800	14	25,200
ΣL=		59,580 mm		ΣW=	59 kg		
		コンクリート体積 (m ³)		1.35			
		砕石面積 (m ²)		2.00			
		型枠面積 (m ²)		5.60			

側面図



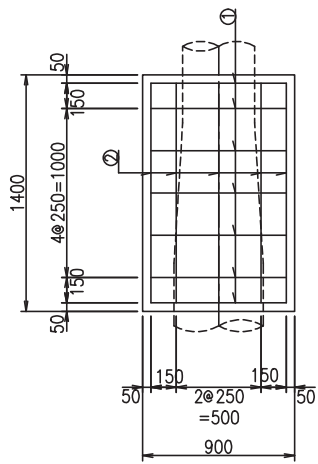
断面図



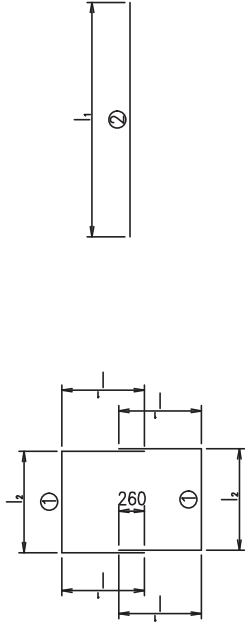
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に密圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不固沈下対策を講じること。

片落管保護コンクリート
φ400 × φ300
(単位mm)

平面図

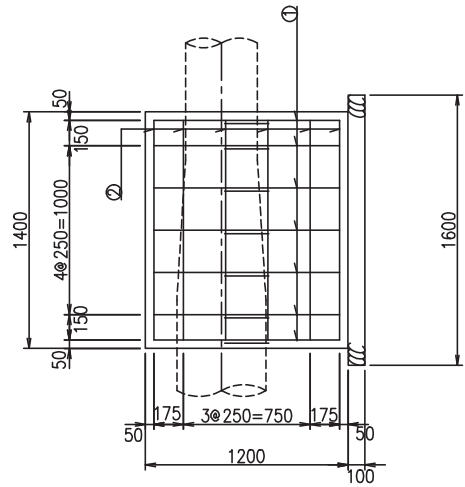


配筋加工図

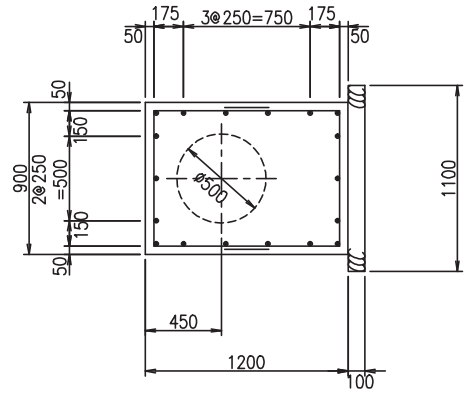


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計	
①	D13	680	800		2,160	14	30,240	
②	D13	1,300			1,300	18	23,400	
ΣL= 53,640 mm							ΣW=	53 kg
コンクリート体積 (m ³)								1.25
砕石面積 (m ²)								1.76
型枠面積 (m ²)								5.15

側面図



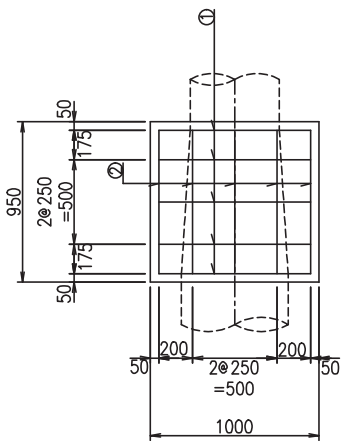
断面図



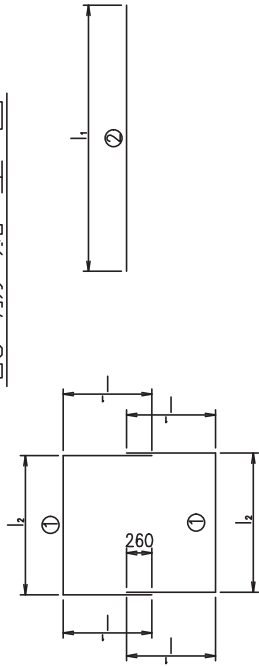
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に振圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講ずること。

片落管保護コンクリート
φ500 × φ400
(単位mm)

平面図

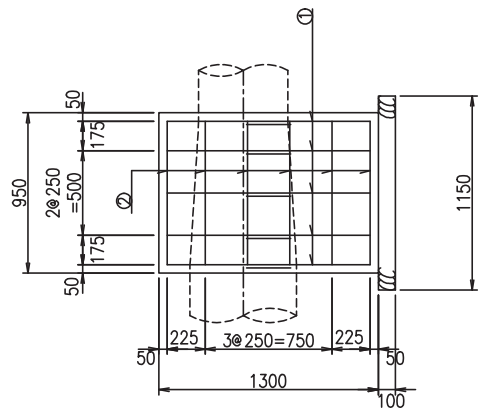


配筋加工図

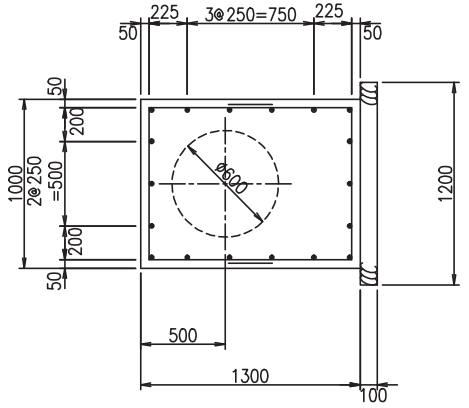


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計	
①	D13	730	900		2,360	10	23,600	
②	D13	850			850	18	15,300	
ΣL= 38,900 mm							ΣW=	39 kg
コンクリート体積 (m ³)								0.98
砕石面積 (m ²)								1.38
型枠面積 (m ²)								4.54

側面図



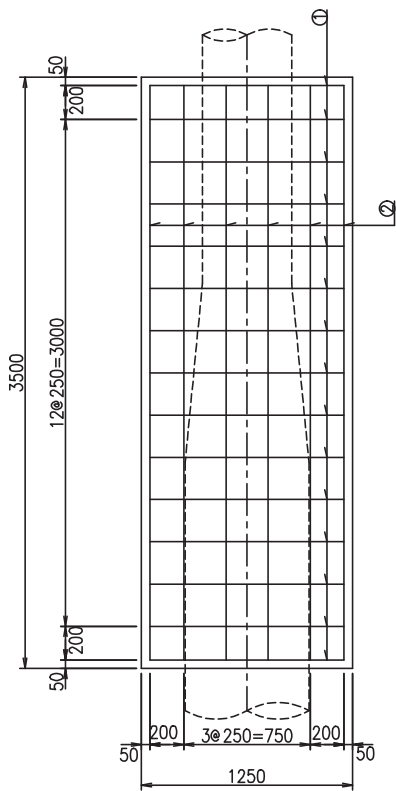
断面図



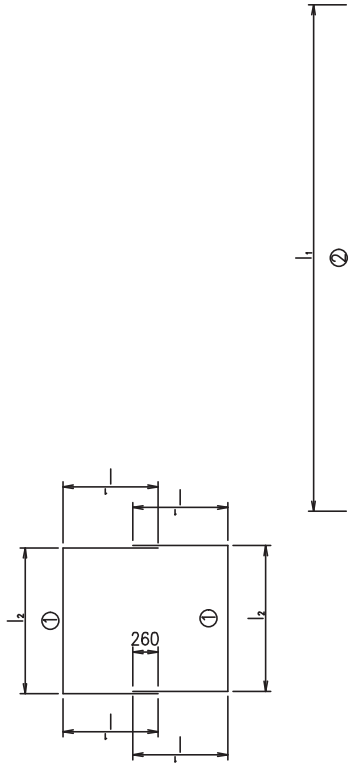
(注) 1. 砕石は振き均し後、十分に圧延すること。
 2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

片落管保護コンクリート
 φ600 × φ500
 (単位mm)

平面図

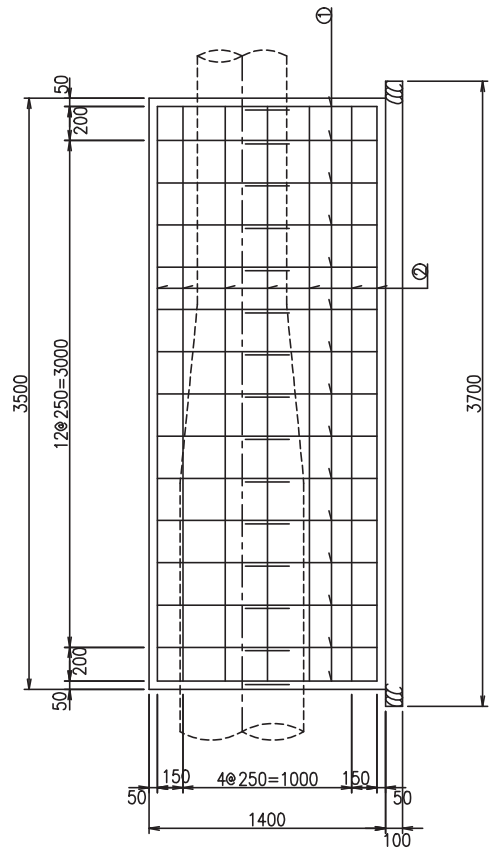


配筋加工図

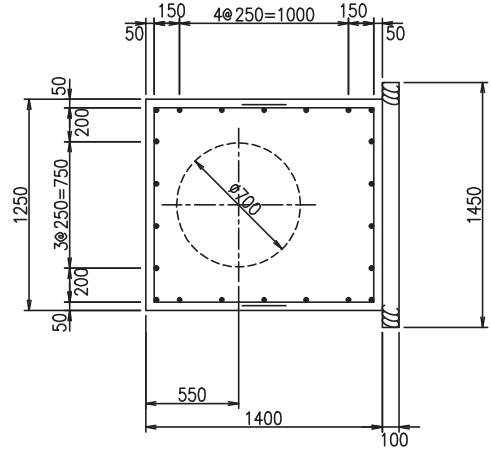


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	780	1,150		2,710	30	81,300
②	D13	3,400			3,400	22	74,800
		ΣL= 156,100 mm		ΣW=		155 kg	
		コンクリート体積 (m ³)				5.01	
		砕石面積 (m ²)				5.37	
		型枠面積 (m ²)				12.66	

側面図



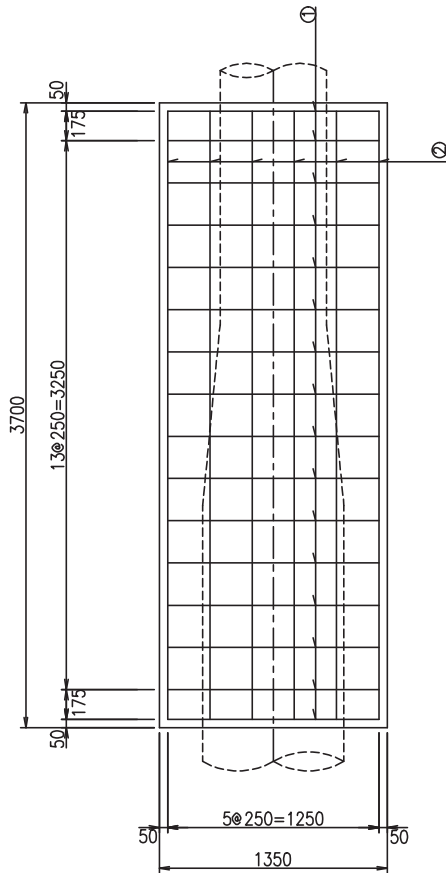
断面図



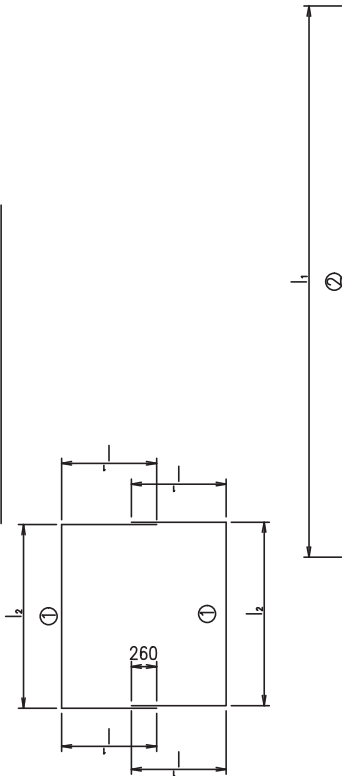
(注) 1. 砕石は振替均し後、十分に振圧すること。
 2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

片落管保護コンクリート
 φ700 × φ500
 (単位mm)

平面図

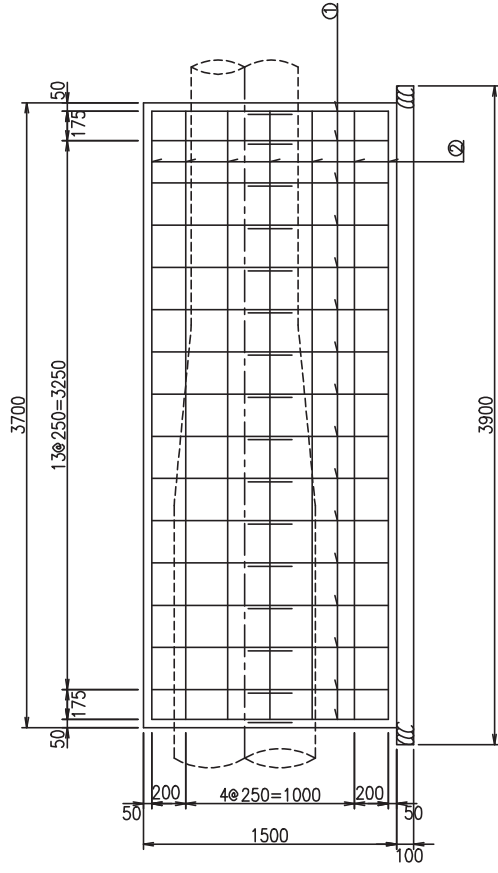


配筋加工図

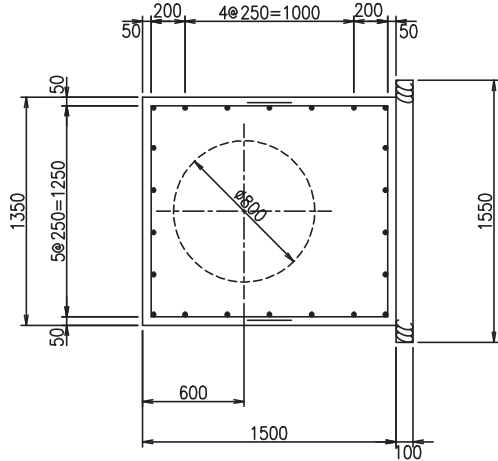


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計	
①	D13	830	1,250		2,910	32	93,120	
②	D13	3,600			3,600	22	79,200	
ΣL= 172,320 mm							ΣW=	171 kg
コンクリート体積 (m ³)								5.90
砕石面積 (m ²)								6.05
型枠面積 (m ²)								14.29

側面図



断面図



(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に振圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

片落管保護コンクリート
φ 800 × φ 600
(単位mm)